

はじめに

現在、大阪府内には公共・民間をあわせて220を越える識字・日本語教室があり、5500人以上の人々が学んでいます。外国人学習者は4600人を超え、中国をはじめ78の国・地域から来た人たちが参加しています。

(2009年度「地域における識字・日本語学習環境実態調査」)

それらの教室では、日本語を学ぶとともに、日本で暮らすために必要な情報を得たり、地域社会との交流を深めるなど幅広い活動が展開されています。

教室の多くがボランティアの人々で支えられていますが、運営費の確保、学習パートナー(学習支援者)の不足、研修の場、教材さがしなど多くの課題を抱えながら活動されています。

この教材は、昨年にひきつづき大阪府教育委員会から委託をうけた「平成23年度 日本語学習活動活性化サポート事業」を活用し、地域の教室で学習パートナーとしてボランティア活動しているかたがたや、日本語学習者のかたがたと一緒に作成しました。昨年度の「あいう絵おしゃべり」であつかえなかった話題について、楽しく読み書き・会話ができるように、コラムをたくさん挿入しました。日本語学習だけでなく、日本での生活や就労に必要な情報や、日本の習慣なども一緒に学習できる教材です。ホームページから、誰でも、いつでも、プリントアウトして使っていただけるようにしています。教室で実際に使った活用例を出し合って、さらに変化、修正、補足、発展できればと願っています。

最後になりましたが、ご協力いただいた教材作成委員並びに関係者のみなさまに改めてお礼申し上げます。

識字・日本語研究会 会長 上杉 孝實



も く じ

本書の使いかた 1

ユニット 1 銀行 4

Ⅰ 銀行口座を開く 5

Ⅱ 銀行でできること 16

ユニット 2 携帯電話 20

Ⅰ 携帯電話でできること 21

Ⅱ 携帯電話の買いかた 24

Ⅲ 携帯電話の使いかた 28

ユニット 3 仕事 38

Ⅰ 仕事をさがす 42

Ⅱ 日本のマナー 48

資料 (多言語相談・情報提供など) 54

本書の使いかた

.....
☆本書の趣旨
.....

まず、この教材は「どこで」「どんな人が」「どんな人と」使う教材かというと、

どこで

『地域のボランティア教室』で

どんな人が

『簡単な日常会話ができる人』が

どんな人と

『日本語学習支援者（パートナー）』と

日本で生活・就労する上で必要なことがらを題材にして、日本語学習だけではなく、生活に必要な情報を知り、日本のマナーや習慣を学ぶときに使う教材として作成しました。

ひとりで学習するためのものではなく、地域のボランティア教室で、たのしく会話しながら学習するための教材です。この教材をきっかけにして、どんどん会話をひろげてください。

わたしたちが2011年3月に発行した「あいう絵おしゃべり」という教材は、ほとんど日本語がはなせない人が、その人と共通のことばが話せない人と、地域のボランティア教室で日本語を学ぶための教材でした。本書は、そこで扱えなかった生活に必要な話題をとり上げています。

「あいう絵おしゃべり」と同様、こちらから完成したものを一方的に提供するのではなく、実際に使用されたみなさんと双方向で、これからも一緒につくっていく教材です。

識字・日本語研究会のホームページに掲載されています。みなさんからいろいろな使いかたや改良点の提案をしていただいて、更新し、もっといい教材に育てたいと考えています。

.....

☆識字・日本語教室と本書について

.....

地域の識字・日本語教室は、ほとんどが週に1回、約1時間半～2時間程度の学習時間です。しかも毎回休まずに来ることができる人ばかりではありません。

また、1対1で学習しているケースがもっとも多いです。学校での勉強のように教科書にそって1人の先生が数十人の生徒に教えるのとは違っていています。そこで使われる教材は、学校用のテキストとは違う地域の識字・日本語教室にあったものが必要とされ、さまざまところで教材作成や工夫がされています。

教室によっては、学習者の要望にそった学習をしようと思っけていても、事前に誰とどんな学習をするか決まっけていないために、前もって学習の準備ができないケースもあります。必要なテキストや地図・絵カードなどを保管できる場所がない教室もあります。

地域の識字・日本語教室は、同じ地域に暮らす者として対等に接し、必要な学習支援をしながら交流していています。

生活に関する情報交換をし、感じたことや考へたこと、お互いの文化や習慣の違いなどについても日本語で話し合える場です。

本書は、そのような場で、使いやすい教材をつくろうと、実際に活動していているボランティアのかたがたとそこで学ぶ学習者のかたがたといっしょに意見を出し合っけてとり組みました。これからも、みんなでどんどんつくり変えていけたらうれしいです。



.....

☆本書の構成と使用例

.....

① 3つのユニット「銀行」「携帯電話」「仕事」があります。

順番はどこからはじめても構いません。

② ユニットの最初に、ねらいと、どんな話題を扱っているか、どんなことばが使われているかを書いています。学習を始める前に、学習支援者が知っておいてください。

③ 話のきっかけづくりを「ウォーミングアップ」として提案しています。

④ 文中に次のマークがあります。

 **聞いてみましょう** =学習者への問いかけを提案しています

 **話しましょう** =学習者といっしょに話す内容を提案しています

 **練習しましょう** =会話や書く練習を提案しています

⑤ 日本語教育の文型にとらわれずに、生活に必要なことばを学びます。本書の語彙がわからないときは、学習者がわかる日本語に言いかえて話しましょう。

⑥ それぞれのユニットにコラムが掲載されています。

コラムは、学習者の読む教材としても使えるように、漢字にルビ（ふりがな）をふりました。コラムがきっかけになって、学習者の国の場合はどうか、どう感じるかなど、話がひろがることを期待しています。

では、どのページからでも始めてみましょう！！